

色

IRO

は

WA

匂

NIO

へ

E

ど

DO



特集 未来力1 ロボットがやってきた

平成十三年長月一日発行 卷二十



PHOTO SHU FUJIWARA

自律と協調

電車内で化粧や食事をする若者

傍若無人なオバサン

不祥事が耐えない政治家や官僚たちが

後を絶たない

コンピューターや機械は『NO』とはいわない

若者が引きこもりコンピューターやゲームだけに

ふければ身勝手な人間になってしまう

いつも『YES』という都合のいい反応か

都合が悪ければリセットをしてしまう

裸の王様の誕生だ

しかし人生にはリセットは無く

自分に都合のいい『YES』ばかりではない

むしろ人生は『NO』の連続で

『NO』という言葉から学ぶべきことは

多い

それは自律と協調

多くの世間や友人と交わることが

自らを磨く鏡となる

周りに『YES』しか

いなくなったら要注意

裸の王様がまた一人・・・

編集主幹 阿部龍樹

特集

未来力1

ロボットがやってきた



3

お釈迦さまの真理の花束



9

現代の道しるべ

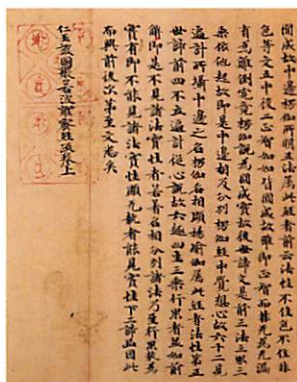
13

『弘法大師墨蹟聚集』の会報から

真保龍敬

墨蹟聚集の会報より

11



弘法大師の芸術論 八

新刊の紹介

精神文化史 研究家 西宮 紘

18

15



文壇の巨星菊池寛が語る
弘法大師空海の世界

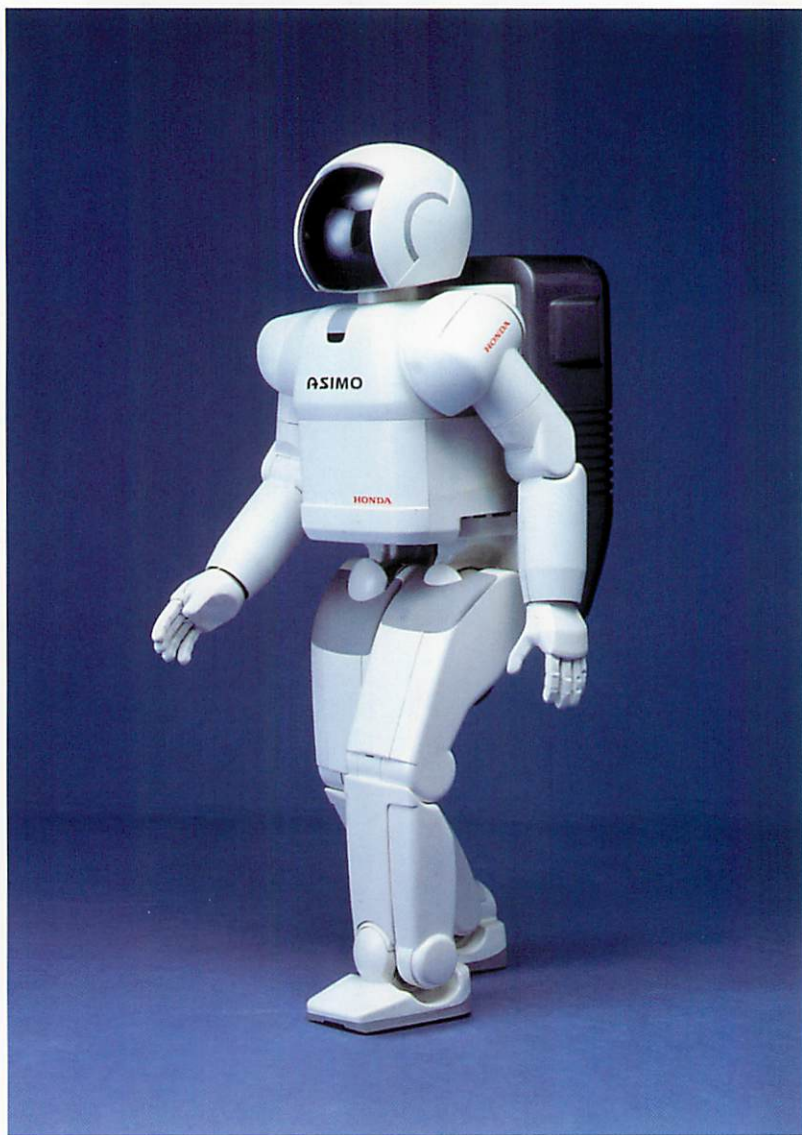


問題は家族の問題。

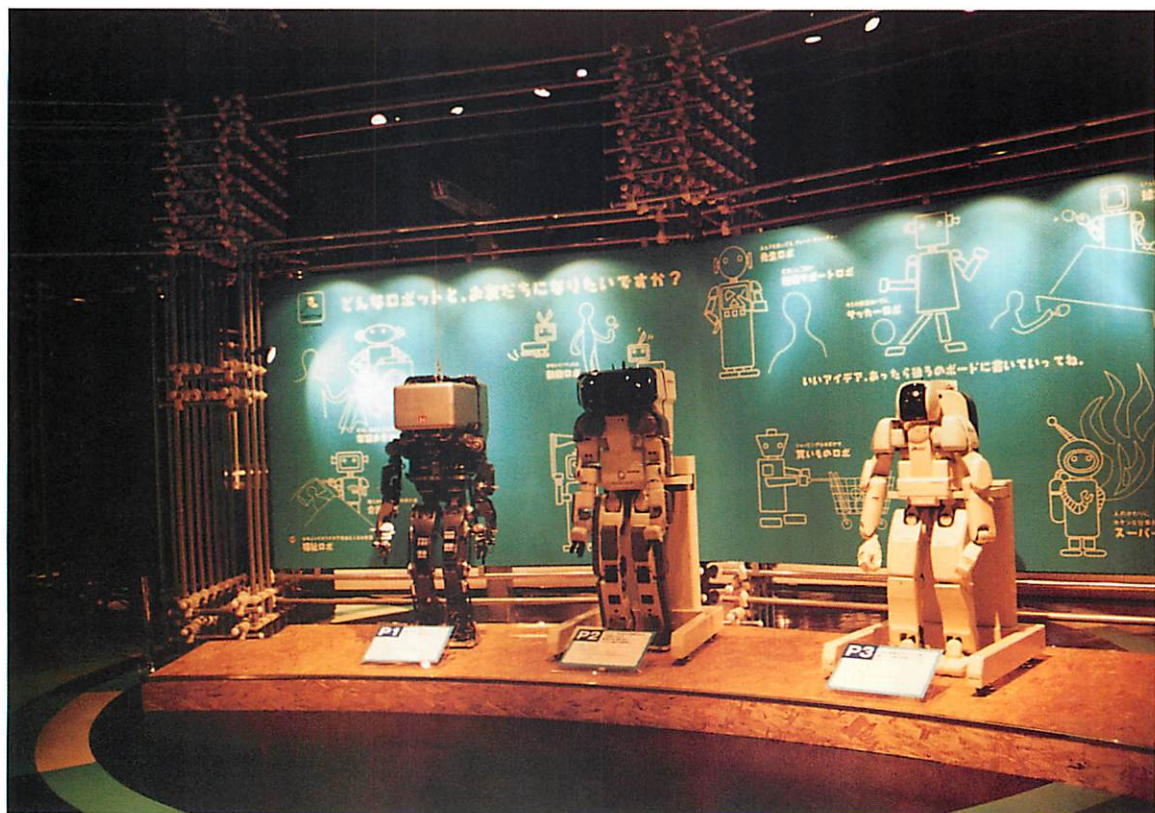
い・若者がカルトに走る。
17歳の脱行の原因になる。
セリングを続ける仏教者の立場から、
断念徹底分析。
長び居するための処方箋! 著 西宮 紘



これでは、あなたも
だまされる!
詐欺の手口と被害者の心理
定価 1,000円(税別) 日本実業出版社



ホンダの二本足歩行ロボット『ASIMO』の登場だ。実になめらかにしなやかに歩く。しかもかなりの早足で。大きな拍手がわく。その自然な動きは見に来てる子供たちが「中に誰が入ってるの？」と聞くぐらい自然な動きだ。未来がやってきた。と、思った。



左から右へと進化してきた。いかに小型化されたかがわかるだろう。

一足歩行のロボットを見に行った。

テレビ報道で二足歩行のロボットを見たとき、ついに出来たのか、という思いと、どの程度動くのかという疑問があった。

テレビ画面の中ではなめらかに動き、手の振り方も自然だがやはりこうしたものは実際自分の目で確かめたいと思った。

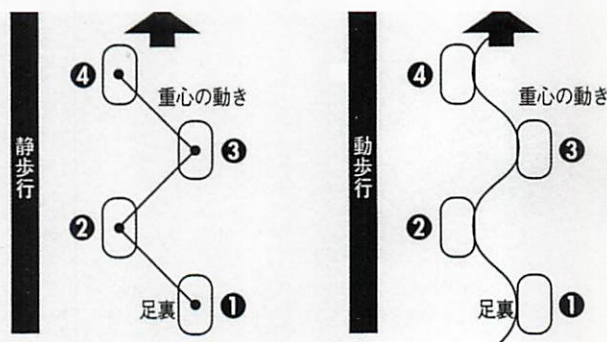
早速ホンダ広報部に問い合わせると栃木県にあるツインリンクもてぎ内のファンファンラボで公開するという。東京から常磐道を車で行き三時間半。広大な敷地の中に大きなサーキットとホンダの歴史が一目でわかる博物館・ホンダコレクションホールや緑の森と親しめるハローウッズ、オートキャンプ場や安全運転の為にトレーニングなどが出来る場もある。

その一角にホンダの環境問題の現状や未来、安全性の現状と未来と技術を紹介するファンファンラボ、そこで二足歩行のロボットが公開されている。最初は大きなスクリーン上で開発の経緯と今までの試作品が上映される。

そこでは二本足で自立して歩くことの難しさがよくわかるし、さらにその歩行が人間の間になるのは並大抵ではないのが実感できる。



手塚プロダクション



資料提供 ホンダ

左図が『静歩行』。全体重が片側の足にしっかり移らなければ前に進めない。一方『動歩行』は重心がなめらかに次の足に移っていく。前足を一步出すとそこに重心が倒れ込むように移動していく。

そのときに揺らぎと柔らかさが生まれる。

歩くということ

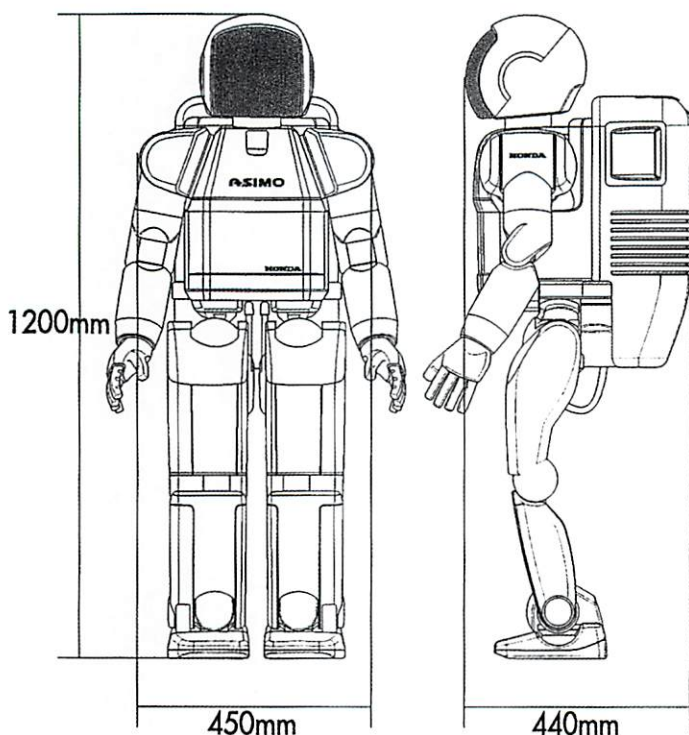
昔の映画に出てくるロボットは、一步一步大地を踏みしめ前に出した足に全体重が乗って体を安定させ、次に反対の足を前に出す。当然動きはぎくしゃくした、いかにもロボットらしい動きになる。これを『静歩行』という。そんなロボットが映画や空想のなかで当たり前だった時代に手塚治は人間型ロボット「アトム」を世に送り出した。大きさは小学三年生ぐらい、しかしアトムの力で自由に空を飛びビルさえ持ち上げることが出来る。もちろん歩くこと話すことも自由だ。

しかし人が行う二本足歩行は機械にとっては至難の業だ。人類が動物から進化して二本足で立ち上がるまで何万年の歳月が必要だった。ロボットが人間のような二本足歩行は二十世紀中には無理といわれていた。

アトムを知るものにとって、いつアトムのようなロボットが出来るかは大きな関心があった。

そのころは漠然と二十一世紀にはアトムがいて、多くの病気もなくなりまた、自動車は空を飛ぶ空中交通システムが完成すると思っていたが、現実はまだそれほど進んではない。マンガ家の想像力は遙かに先をいつていた。

しかしロボットは今、漸くその姿を見せ始めた。ロボットには産業用のロボットと人間型のロボット



重量	43kg
歩行速度	0~1.6km/h
歩行周期	周期可変、歩幅可変
把持力	0.5kg/hand(5指/ハンド)
アクチュエータ	サーボモータ+ハーモニック減速機+駆動ユニット
制御部	歩行/動作制御ユニット、ワイヤレス通信ユニット
センサ	足部 6軸力センサ
	胴体部 ジャイロ・加速度センサ
電源部	38.4V/10AH(Ni-MH)
操作部	ワークステーション及び携帯コントローラ

自由度 (人間の関節にあたる)

頭	首関節(上下方向/回転)	2自由度
腕	肩の関節(前後方向/上下方向/腕の回転)	3自由度
	肘の関節(前後方向)	1自由度
	手首の関節(回転)	1自由度
		5自由度×2腕=10自由度
手	5指(把持=物ををつかむ動き)	1自由度
		1自由度×2本=2自由度
足	股の関節(前後方向/左右方向/旋回方向)	3自由度
	膝の関節(前後方向)	1自由度
	足首の関節(前後方向/左右方向)	2自由度
		6自由度×2足=12自由度

ホンダはなぜロボットをつくるのか

に分けることが出来るかもしれない。産業用ロボットは、工場内で移動することはなく自在に動くアームで溶接や塗装、簡単な組立が出来るもの。

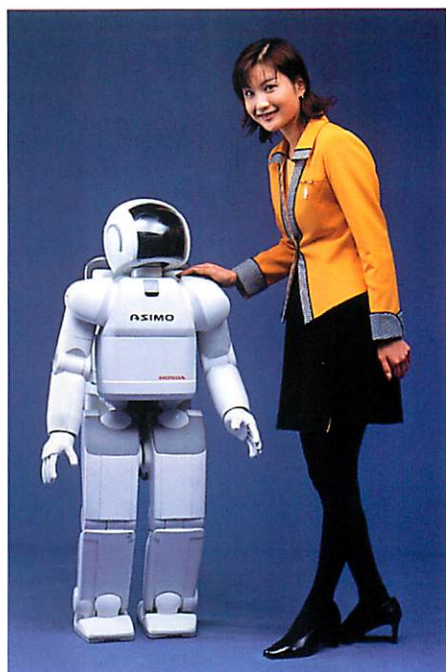
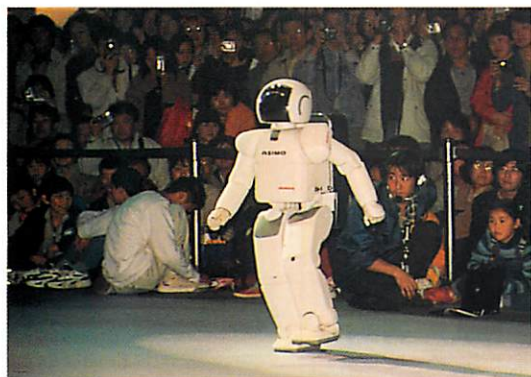
人間型ロボットは移動可能で人間の日常を助け得るもの。とくに移動が二本足で人間のようになめらかであれば申し分ない。

ホンダとロボットは一見ミスマッチ、違和感を感じる人は多い。しかしホンダは多分遠大な未来を想定しているのかもしれない。人類が手に入れられる最高の移動手段。しかも大気圏外でも、ほかの天体でもつかえるもの。まるでアニメのガンダムのように。実際にASIMOは宇宙服を纏った子供に見える。

身長120センチ。やがて小型化と軽量化が出来れば夢ではないだろう。そしてこの120センチのロボットの身長もかなり考えて作られているのがわかる。家庭にあってはほとんどのスイッチや機器類が操作できる。独り暮らしの老人や介護が必要な方のよき協力者に必ず近い将来なると思う。この大きさは家庭の機器類操作に必要な大きさでありながらしかも倒れても人に怪我や圧迫感を与えないためという。

今ホンダでも開発中で世界の自動車メーカーの車作りのキーワードは環境と事故でも人を傷つけない。対人事故でも極力生存できる確率が高くなるような設計が行われている。





身長120センチメートル。ちょうど小学三年生ぐらいの大きさだ。
動きが自然で小さいので親近感がわく。

未来とは

人間が道具を開発したり動くものを作ろうという未知への挑戦は一つの本能に似た欲求かもしれない。

そして人類は夢を持つことで進歩し文明を起こし、文化を豊かにしてきた。なにごとにも心の中に思えなければ、実現できないし、心に思えることの多くが現実化されている。豊かな未来を築くのも、私たちの心次第だ。そのためにはいかに豊かな心でいられるか。豊かな心を育むものは、自然の風物や宇宙の太陽や月やきらめく星をまず美しいと感じる心からだろう。

二十世紀は産業革命で大量生産が可能になり世界中が豊かになった。一方で大量廃棄と大規模な自然破壊と二度の大戦によって大量殺戮が世界中で行われた。

二十一世紀は大量な情報の大きな津波が次から次へと人々を飲み込む時代。しかしどんな膨大な情報でもデジタルやインターネット中の情報では表面的な浅い情報しか得られない。

もてぎへいってホンダのロボットの動きを目の当たりにすると、インターネットや文字、動画情報だけでは伝わらない何かを感じられた。

大量情報の時代こそ、ライブこそ最も有効な情報伝達手段になるだろう。

ロボットへの情報伝達もまだ開発途上だが、ロボットと人間の情報伝達がスムーズになればロボットは瞬く間に家庭に普及するだろう。

お釈迦さまの真理の花束



He abused me, he beat me, he defeated me,
he robbed me, the hatred of those who cherish such
thoughts is not appeased.

He abused me, he beat me, he defeated me,
he robbed me, the hatred of those who do not cherish
such thoughts is appeased.

人若罵我

勝我不勝

快意従者

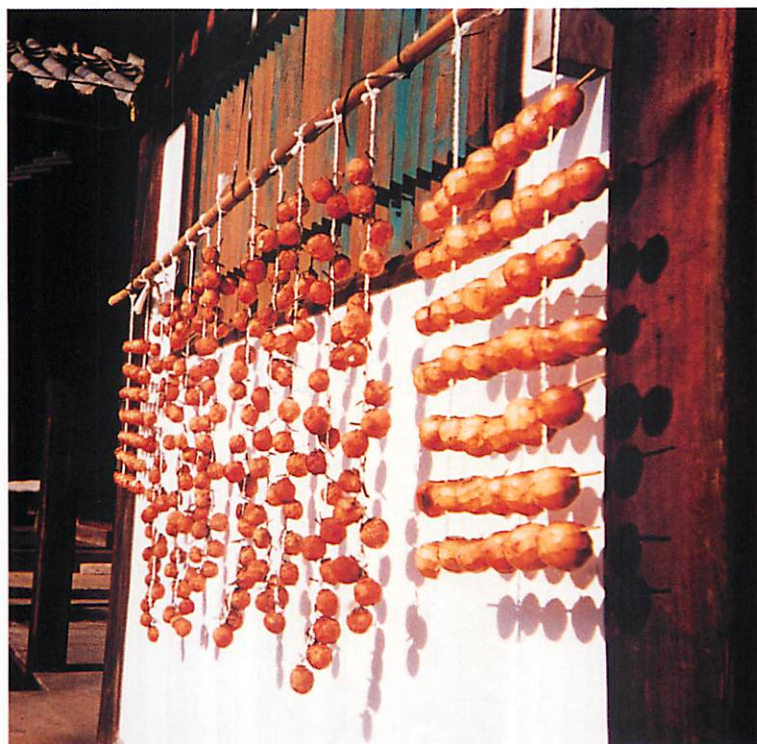
怨終不息

若人致毀罵

彼勝我不勝

快樂従意者

怨終得休息



「彼、われをののしり

彼、われをうちたり

彼、われをうちまかし

彼、われをうばえり」

かくのごとく ところ

とらわれる人々に

うらみはついに

やむことなし

「彼、われをののしり

彼、われをうちたり

彼、われをうちまかし

彼、われをうばえり」

かくのごとくに ところ

とらわれない人々こそ

ついにうらみの

やすらい
止息を見ん

圓成故中邊楞伽所明五法屬此經者前云法性不住色不住非
色等文五中後二正智如如皆圓成故雖即正智而非无為无漏
有為離倒究竟楞伽說為圓成實故後世諦文是前三法三聚三
乘依他起故即是中邊相及分別楞伽經中覺想心故六十二見
遍計所攝中邊之名楞伽名相顯揚喻伽屬此經者法性第五
世諦前四不立遍計從心說故六趣四生三乘行果者並如前
解即是不見諸法實性者若著名相分別諸法乃至行果執為
實有即不能見諸法實性顯无執者能見實性下二諦品因此
而興前後次第至文卷矣

仁王護國般若波羅蜜經疏卷上

山科勸修寺藏 『仁王經良賁疏』

『弘法大師墨蹟聚集一書の曼荼羅世界一』の申し込み お申込お問い合わせは
電話03-3705-7238 ファクシミリ03-3703-4979

『仁王経良賁疏』

国難を滅し国を護り自他を安ずる秘経

真保龍敬

嵯峨天皇が即位された翌年（八一〇）九月十九日、元号が大同より弘仁元年と改元された。これは、平城上皇の重祚を謀った薬子の変（九月十日）の悪夢の一掃を意図したものであるう。

入京していた大師は、この国難を知って早速十月二十七日大唐『仏国の風範』に則り、上表して国家の奉為に高雄山寺において『仁王経』『守護国界主経』『仏母明王経』などの秘経により修法したい旨、奉請された。

この『仁王経良賁疏』もこの時、『仁王経』の注釈具書として添付されて、上呈されたものかと考えられる。

本疏は唐の代宗の勅命によって、青

龍寺主良賁によって撰述され、大師によって請来されたもので、原本は京都山科勧修寺に伝来され、現に京都国立博物館に寄託されている。

本疏には『御請来目錄（宝厳寺本）』や『三十帖策子』と同じ朱印が一六五顆も厳重に捺されており、筆蹟も書写体の楷書で気魄のこもったもので、三巻の筆写本文と、奥書には細字の良賁の上表文と、堂々とした太字の代宗の詔勅文という、三様の筆蹟が気鋭に書き分けられてある特異なものである。

しかも、近年の研究成果から、本疏全体に一貫して、数少ない大師の楷書として、その特質を濃厚に留めている優品としての可能性は高いもの、と考えられ、本墨蹟聚集には上中下各巻の首尾と奥書が、はじめて江湖に原色で開示されたものである。

特に、太字の跋文は、大師の楷書として全墨蹟中の白眉であり、力強い迫力を放っている。

敢えて大師が太字で書いたのも、代宗と嵯峨帝、「如来之秘蔵」と大師の

密教、青龍寺主良賁「法師」と大師が重々に交映し、「永く法宝となせ」と巧妙に詔勅文を以て、嵯峨帝への訴えを大書したものに相違ない。鬼気迫る大師の伝法への凄さを観られたい。

現代の道しるべ 失われた十年を考える

十年間に何が失われたのか

この間、四万十川の河川敷で獲れたというじつに美味しいトマトを食べた。

ハウス栽培で肥料を充分やるトマトにはない実のしまった歯ごたえと、甘さ。

もともとアンデス高原のやせた土地が原産のトマトは、そのやせた土地から充分栄養を取り込む力があるという。

その厳しい環境の中で獲れたトマトが、トマト本来のみずみずしい味わいに優れている。その本来の育て方で四万十川でトマトの栽培をしているという。

「色は匂へど」の創刊号で紹介した『わら一本革命』を起こした福岡さんの考えに共通する。植物には本来その土地にあった生きる活力があり、その本来の力が発揮できるようにするには人間が極力手を出さないということだ。

つまり過保護は禁物。

さてこの十年を失われた十年という。

バブルが崩壊し、株も土地も下落して、資産が減少する、資産デフレがまだ止まらない。資産デフレ以上にもっと深刻なデフレが進行している。

この問題の原因ははっきりしている。

危機意識が欠如した政府と政治家の無策。無策以上に政府は日本をミスリードし続けてきた。

何年たつても減少しない不良資産。

使わない飛行場や港や道路やダムを作り続ける無意味な公共事業。

年々増加する医療費と、いっこうに減らない病院がわたす薬の種類と量。

交通事故死者が一万人を超えてから、交通非常事態というキャンペーンだけで、まったく具体策がない交通行政。

減り続ける食糧自給率と、エネルギーの自給率。

無意味に繰り返される肥沃な農地を死滅させる減反。

海外から感謝されない外務省のODA
記者クラブにあぐらをかいて情報を
請け売りしかできないマスコミ、しか
しひとたび不祥事を見つけると始める
歯止めなきバッシング。

考えてみるとすべて国の保護の中にあった業種や業界の地盤沈下が激しく、すでに業種としての生命を失ったところを無理に延命させようと、税金や予算をつぎ込むのは、すでに死期を迎え安らかに旅立つ時を迎えた人に、たくさんチューブを着け、必要以上の薬や点滴で生かされ続ける人と変わらない。

トマトが痩せた土地から美味な美しい実を付けるように、自由競争の中でこそ、国際的にも競争力のある国家になっていく。

今年は検査を受けるので何年かぶりに病院に行った。私自身、医学のお陰で助けられたと思ったことが二度もあり、医学には感謝している。

しかしどこもそうなのか気になることがいくつかあった。先ず大病院は手続きがわからない。受け付け方法、予約票や会計、薬の受け渡し、二三度いったぐらいではわからない。そして患者のプライバシーが全く守られないということ。べつにカルテが流出するわけではない。しかし待合室と診療室は薄いドア一枚で隔てられるだけで、診療室の会話が待合室の全員に聞こえてしまう。病状から治療方針、手術の予定まで。深刻な病状の説明が始まると待合室全体が重い空気に沈んでしまう。

そしてとにかく待たされる。

予約をしてあるにも関わらず、必ず当日、カードを機械に入れ予約票を受け取りそれを各科の受付に出す。仮に診療開始が午前九時だとして機械が動くのが八時半としよう。八時半に行くと長蛇の列が出来ていて、延々と待たさ

れる。腰掛けは僅かしかない。具合の悪い高齢の方がしゃがみ込んで待っていて、も病院側は全く手を貸さない。声を掛けて椅子を譲って貰ったが、その人はご主人の付き添いだった。速い人は機械が動く一時間前から待っているという。よほど健康に自信がないとここで待つのは相応につらい。診療で待ち、会計で待ち、薬を受け取るのでさらにまってほぼ半日。

聞くとところによるとアメリカの病院には待合室がないという。完全予約制だから、患者はその時間に行けば待つ必要がない。

そんな時、心臓外科医の須磨久善先生とスポーツを通してご縁が出来た。須磨先生は神の手を持つとまでいわれる天才的な外科医で、先生のことはNHKの『プロジェクトX』や『課外授業ようこそ先輩』でも何度も放映されているので見た方も多いと思う。須磨先生が葉山に開かれた病院はどの病室からも海が見え、床は暖かみのある木の床。近海で獲れた

新鮮な魚が食卓に並ぶ。

先生自身がまず患者の立場で考え、患者の目線でものを見る。また近くの小学生たちにも病院を公開し手術まで見せることによって、生命の尊さが子供たちにもわかるという。

この十年で失われたもつとも大きなものは心の喪失だが、各分野に須磨先生のような志のある人が増えることによって、豊かな未来を開くと思う。

アンデスの荒野や四万十川の河川敷が豊かなトマトを育むように。

新刊の紹介

『弘法大師とその宗教』

菊池 寛

大東出版社

弘法大師について書かれた本は実に数が多い。しかし一般の読者が手に取るもので勧められるのは意外に少ない。

先の御遠忌、つまり弘法大

師が高野山に入定されて一

五〇年を迎えた昭和五十九年

に司馬遼太郎氏の『空海の風景』や陳舜真氏の『曼陀羅の

人』が世に出て、最近の多く

の人はこの二著から空海の印象

を作り上げイメージされる

方が多い。司馬氏の本はベス

トセラーになり文庫にもなっ

たので、より多くの人の空海

像の本になっているが、あく

までも司馬氏の作り上げた小説であって

事実ではない。『空海の風景』を読んで

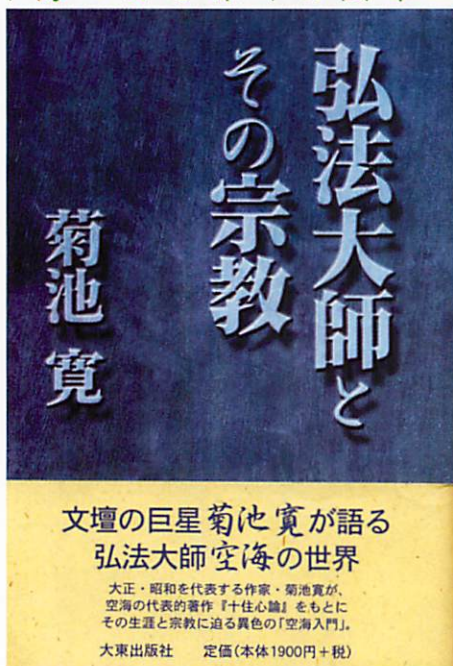
空海を嫌いになった人も周りにも何人も

いるので、そのつど小説家が書いたもの

では菊池寛氏のこの本を必ず薦めてい

た。

しかしこの本は前々回の御遠忌つまり昭和九年に著されたもので長く絶版になっていたが今回同じ出版社から再版された。弘法大師と同じ香川県出身の当時菊池氏は講談社から空海の戯曲を頼まれた。しかし氏は学べば学ばほど空海の事跡を戯曲にまとめられないと断ると、講



談社では小説ではと依頼した。菊池氏も再度挑戦したが、小説も結局諦めた。その経緯が淡々とはしがきに述べられている。そこに作家の良心を私は感じた。したがってこの本は戯曲でも小説でもな

い。戯曲や小説を書くために菊池氏が学び知った弘法大師の生涯を前半に、そしてもっとも大切な空海思想書、十住心論の解説を後半にまとめた素晴らしい入門書。

『カルトから家族を守る』

楠山泰道・貫名英舜

毎日新聞社



フランスで先日『カルト防止法』が施行された。世界の先進国でもっとも厳しい法律で近い将来各国が追従すると思われる。逆に言えばそれほどカルトはより巧みに人々の心に忍び込んでくる。危機感の欠如して国民の幸福を省みない国家が政教分離と腰を引いている日本ではカルトから家族を守るの

は、やはり家族だろう。

新聞で折り込みのアンケートや能力開発、大学や高校のサークルやクラブ活動、カルトはあらゆる機会をとらえて広がろうとする。今やターゲットは小中学生にまで年齢層を下げてきている。実際のケースから解き明かしたこの本を読んでおけば悲劇を未然に防げる。

『簡単にだまされる人々』

小田 晋

日本実業出版社



「いい人と思われたい」と誰でも思う。そこにだます人の付け入るすぎがある。すきは欲望や不安、癒しを求める心にもある。男と女のだましあい。権威への弱さ。だまされているとは思いたくない心理。恐ろしいマインドコントロール。今度こそと思う心がまただまされる。だまされるには理由がある。

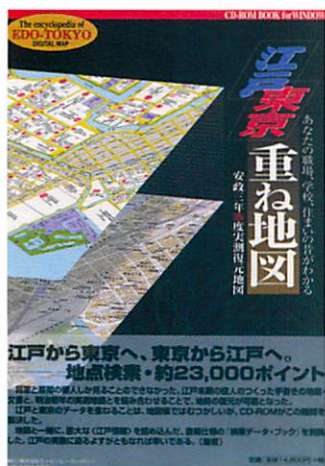
犯罪心理学者の第一人者が説くだまされないための心理学講座。

『カルトから家族を守る』とあわせて読むことをお勧めします。

『江戸東京重ね地図』

中川恵司編

丸善株式会社



時代小説を読んでいたり落語を聞くと趣のある地名がたくさん出てくる。しかし町名の変更や時代の流れで、その地名がどこを指すのかわからないことが多い。この地図は編者がその時代を共有したいという欲求から編んだ素晴らしいもので、コンピューター上で今の東京都、かつての江戸が瞬時に重なり見ることができる。索引の充実も際だっていて、公儀幕府の地名、たとえば伊賀者屋敷や黒鍬者屋敷の場所からすべての神社仏閣、また桜や藤や紅葉の名所から祭りの場所、さらに歴史的な有名店、たとえば榮太郎や長命寺の桜餅、鯉節のにんべん、松崎煎餅、駒形どぜう、永坂更科などは創業の年から店の様子まで書いたものもある。特筆すべきは小説『鬼平犯科帳』の第一話から池波正太郎が亡くなったため未完の第百三十六話に出てくる地名がすべて順番に一覧することができる。この地図をもつて江戸時代にタイムスリップして散策するのはとても楽しいと思う。

狸毛筆四管

真書一

行書一

草書一

寫書一

右伏奉昨日 進心且教筆生坂名井

清川造得奉進空無於海西所聽見
如此其中大小長短強柔齊央者隨
星好各別不允 聖愛自外八分小
書之樣闕書臨書之式雖未見作
得具足口授耳謹附清川奉進不宣
謹進

弘法大師の芸術論 八

弘法大師の筆 精神文化史研究家 西宮 紘

前回までは、お大師様の文学論について考えてきたのであるが、今回からは書道論について考えてみる。それに入る前に、書する道具である筆について、お大師様がどのように考えておられたか見てみよう。昔から、「弘法筆を選ばず」などと言われてきたのであるが、それは本当であろうか。弘仁三年（八一二）六月七日付の上表文「筆を奉獻する表」の中で、お大師様は「（筆は）大小長短強柔齊尖なるを字勢の麤細に随ってすべて取捨すならくのみ」と述べられている。つまり、筆の大・小・長・短・柔・齊（先のそろったもの）・尖（先の鋭いもの）を区別して、字勢の麤大・微細に従って取捨選択すべきであると言われている。そればかりでなく、一般には毛の堅さでいえば、羊毛・猫毛・兎毛などは柔らかく、鹿毛や馬毛は硬く、狸毛や毛はその中間で、腰が強く弾力に富んでいるわけだが、同じ種類の毛でも、楷書用、行書用、草書用、写経用などと、それぞれ

の用途に従って筆を造りわけなければならぬといふも述べておられる。どういう毛の筆を選ぶかは、それぞれ人の好みがあるから、その人に適した筆を選ぶべきであるとも述べておられる。また、上啓文「春宮に筆を献ずる啓」（弘仁三年頃）では、「良工は先ず其の刃を利くす、能書は必ず好筆をもちいる」とも述べておられるように、お大師様は、好筆を選ぶのに細心の注意を払っておられたことがわかる。要するに、「好筆」を選ぶというのは、自分の好みの毛で、用途別に取捨選択しなければならぬのである。お大師様の好みの筆はどういうものであったかという点、それは「狸毛（たたび）」の筆であったようである。上述の上表文によれば、お大師様は、唐国に留学されたときに、狸毛の筆の製法を伝授されておられ、その製法を筆生坂名井清川に伝えて真・行・草・写経用の四管に造り分けさせたところである。この狸毛の筆で書かれた草書などは、多少なりとも骨気の鋭さを示すものであると考えられ、柔らかすぎず、硬すぎず、お大師様が特に好まれたものであろうと推察できる。筆

の造り分けは、右の用途以外にも、八分（はっぶん）といつて、隷書の波勢・波啄（はたく）の強調された書のためのもの、あるいは細字用、さらには、原本を下に敷いてなぞり写す搨書（とうしよ）用、手本を傍に置いて書する臨書用など、それぞれに向いた筆を造り分けるべきだとも述べておられる。ただ筆を選ぶという一事についてさえ、お大師様は実に細心の注意を払われておられたのだ。つまり、弘法筆を選ばず、という言い伝えは間違っていたのである。もちろん、こうした注意深さは当然、墨・硯・料紙等に対しても払われておられたに違いないであろうが、お大師様の遺文からは窺えない。京都の東寺には、恵果阿闍梨から伝わりお大師様が使用されたという、まことにシンプルな風字硯と唐墨が残っている。また、種々の書蹟からして、料紙としては、麻紙・斐紙・絹地などであまり選択の幅はなかったかと思われる。なお、右の上表文は、狸毛の筆四管を嵯峨天皇に献上する際に書されたものである。



次回発行は12月1日予定

特集 宇宙船地球号と

天才建築家バックミンスターフラー

Editor ABE RYUJU Art Director and Photographer/SHU FUJIWARA

Editorial Staff/ SAMURO MIWA TOKUMARU KOJI ONUKI REIO MOTOYAMA KAZUFUMI OYAM CHIGUSA

HOME PAGE DESIGN MASAOKI OKA HIROYUKI HANAWA Making Mechanic SANMITUSHA+BENRIDO Printing KORINKAKU

EDITORIAL OFFICE MANGANJI SHUGEISHUCHIIN S.H.C

〒158 東京都世田谷区等々力3-15-1 電話 03-3705-1622 ファクシミリ 03-3703-4979

Shingon Horonic Irowanioedo 第一巻第二十号 平成十三年長月 一日発行